

第1学年 国語科 1年間の学習と評価について

春日部市立豊春中学校

1. 学習目標

【1学年】

- ・自分の考えを大切に、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに、話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。
- ・必要な材料を基にして自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる。
- ・様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみ、ものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

【2学年】

- ・自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。
- ・様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。

【3学年】

- ・自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。
 - ・様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。
 - ・目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。
- ものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて豊かに表現する能力を身に付ける。

※学年別配当漢字を読んだり書いたりし、文の中で使うことができる。

2. 年間の授業計画と学習のねらい

学年	学習内容	学習のねらい
1 学 期	「朝のリレー」(詩歌) 「野原はうたう」(詩歌) 「声を届ける・書き留める・言葉を調べる・続けてみよう」 「シンジュン」(物語文) 【漢字①漢字の組み立てと部首】 「ダイコンは大きな根？」(説明文) 「ちょっと立ち止まって」(説明文) 「硬筆」(書写) 「話の構成を工夫しよう」 「詩の世界」(詩) 【言葉①指示する語句と接続する語句】 【文法 言葉のまとめ】	◎詩を鑑賞する態度の基礎を学び、感動の中心をとらえる。 ◎詩の形式や表現技法についても理解する。 ◎音読やスピーチを授業内で取り入れる。 ◎場面の展開や登場人物の相互関係など、描写を基に捉える。 ◎言葉が持つ価値に気づくとともに、思いや考えを伝えあおうとする。 ◎説明的な文章を読解する態度の基礎を学ぶ。 ◎段落ごとに筆者の考えを読み取り、要旨をつかむ。 ◎段落の役割を理解し、説明文の構造を把握して内容を読み解く。 ◎小学校で学習した書写要素の確認を行う。字形を整え、文字の大きさと配列に注意して楷書を書く。 ◎聞き手に分かりやすい話の順序を考える。 ◎詩と詩の鑑賞文を読解する態度の基礎を学ぶ。 ◎指示語と接続語の役割について理解を深めることができる。 ◎文法の基礎である分節・単語について理解する。
2 学 期	「大人になれなかった弟たちに……」(小説) 「星の花が降るころに」(物語文) 「『言葉』をもつ鳥シジュウカラ」(説明文) 【漢字②漢字の音訓】	◎表現の特徴や時代背景を押さえ、作者の思いに着目し、自分のものの見方や感じ方を見つめ直す。 ◎情景描写と主人公の心情の関連性に力点を置いて小説を読解する。 ◎原因と結果、意見と根など情報との関係について理解することができる。 ◎漢字の読みには「音」と「訓」があることを理解する。

	「いろは歌」 (古典) 「蓬萊の玉の枝」 (古典) 「今に生きる言葉」 (古典) 「不便の価値を見つめなおす」 (説明文) 【文法②言葉の関係】 「書きぞめ」 (書写)	◎歴史的仮名遣いを理解し、古典の音読・暗唱を通じて古典に親しむ。 ◎文章に表れているものの見方や考え方を捉える。 ◎語句に注意しながら、現代と古文の文章で異なる部分を確認、古文の ◎文章表現の特徴を知る。 ◎故事成語の意味を理解する。 ◎説明的な文章の比較や分類、関係づけ等の情報整理の仕方を理解する。 ◎文節どうしの関係、連文節、文の組み立てについて理解する。 ◎行書の筆使いを学ぶ。仮名を調和させて書く。
3 学 期	「少年の日の思い出」 【言葉3 さまざまな表現技法】 【漢字3 漢字の成り立ち】 【文法への扉3 単語の分類】 「さくらのはなびら」	◎場面展開や人物描写に注意して作品を読み、登場人物の心情の移り変わりを捉える。 ◎言葉の並べ方の工夫や比喻について、具体例を通じて理解を深める。 ◎六書および国字について理解する。 ◎自立語と付属語、活用の有無、体言と用言について理解し、十品詞に分類する。 ◎市の表現技法を基に、作者の思いを読み取る。

3. 評価の観点と方法

《主体的に学習に取り組む態度》

- ・知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている。
- ・前述の粘り強い学習を行う中で、自らの学習を調整しようとしている。これらの態度を授業でみていきます。

《思考力・判断力・表現力》

(話すこと・聞くことにおいて)

- ・情報を的確に聞き取り、また、自分の思いや考えを聞き手に伝わるように話しているか。
- ・話し合いの話題や方向を捉え、相手の反応を踏まえて話したり、自分の考えをまとめたりしているか。これらを聞き取りテストやスピーチ等で判断します。

(書くことにおいて)

- ・身近な生活の中から目的や相手に応じた情報を集め、観点を決めて整理し分かりやすい文章を書いているか。
- ・具体的な根拠を挙げて、自分の考え(共感・納得・疑問・反論)を分かりやすく書いているか。これらをワークシートや定期テスト等で判断します。

(読むことにおいて)

- ・情景や人物描写に着目して登場人物の心情を読み取っているか。
- ・文章の要旨を的確に捉え、学習を通じて自分のものの見方や考え方を広げているか。
- ・作品の中の語句の意味や表現の特徴を捉え、自分の考えを持っているか。これらをワークシートや定期テスト等で判断します。

《知識・技能》

- ・語句の文脈上における意味を理解し、言語感覚を磨いている。
- ・漢字の組み立てや成り立ちに関心を持ち、漢字をおおむね正しく読み書きしている。
- ・段落の役割を考える際に、文と文、段落と段落を接続する語句の働きを理解している。
- ・文法の必要性を知り、言葉の単位と文の組み立てと品詞分類を理解している。これらを小テストや定期テストで判断します。